

各部・支所・課、機関の長 殿

市 長

令和3年度予算編成方針について（通知）

1 国の動向

内閣府が発表した10月の月例経済報告では、景気認識を示す基調判断を「景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。」としており、「先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。」とする一方、「国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。」としている。

これを受けた国の政策の基本的態度は、東日本大震災からの復興・創生、激甚化・頻発化する災害への対応に取り組むとともに、決してデフレに戻さないとの決意をもって、新型コロナウイルス感染症の感染対策と経済活動を両立し、雇用の確保、事業の継続を通じて国民生活を守り抜く。その上で、感染症によって明らかになったデジタル化などの新たな目標について、規制改革など集中的な改革、必要な投資を行い、再び力強い経済成長を実現する。そのための主要施策について、「経済財政運営と改革の基本方針2020」等に基づき、経済財政諮問会議で議論される大きな方向性と重点課題に沿って、新たに設置した成長戦略会議において、改革を具体化することとしている。

令和3年度予算の概算要求の具体的な方針は、新型コロナウイルス感染症への対応など緊要な経費については、別途、所要の要望を行うことができることとしながら、これまでの歳出改革の取組を強化するとともに、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化することとしている。

2 本市の方針

本市の普通会計における令和元年度決算の歳入総額は、567億4,241万円、歳出総額は、531億2,821万7千円であり、実質収支は、29億7,180万5千円の黒字となったが、実質単年度収支は、9億4,108万6千円の赤字となった。加えて、財政調整基金の令和元年度末現在高は、75億4,735万7千円となり20億円程減少した。

主要な財政指標である経常収支比率は、対前年度比0.6ポイント増の94.9%となり、依然として財政構造が硬直化している状況である。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、市民生活や地域経済に大きな影響を与えるとともに、本市の財政運営に対しても、感染防止や地域経済への対策、新しい生活様式への対応など新たな財政需要を発生させ、大きな影響を及ぼしている。

特に懸念されることは、歳入において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により、市税や普通交付税等の収入見込みが不透明であるとともに、歳出においては、少子高齢化に伴う社会保障経費、公共施設の老朽化に伴う大規模改修経費、指定管理委託料の増加などにより、一層厳しい財政状況が続く見込みである。

3 本市の予算編成方針

令和3年度の予算編成においては、「第2次薩摩川内市総合計画」や「薩摩川内市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく政策・施策を推進し、人口減少・少子高齢化など直面する課題や、新型コロナウイルス感染症への対策など、新たな行政課題に的確に対応していく必要がある。

また、既存事業については、その必要性を厳しく検証するとともに、新規事業については、効率的で効果的な事業を構築することとし、限られた財源を有効に活用しながら将来を見据えた健全な財政運営を行っていくことに、職員一丸となって取り組まなければならない。

なお、この方針に定めるもののほか、予算編成の基本的な考え方や要求要領等については、別途示すこととする。